

学会だより

学 会 活 動 報 告

五月晴れに恵まれた5月15日午後2時半から、約140名の卒業生及び教室関係者の出席のもと、お茶の水地理学会設立総会が開催された（一般教育棟2号館）。ここで学会設立の趣旨説明のあと、準備委員会の審議経過報告、学会規約案、役員選出に関する提案、57年度事業計画案が承認され、お茶の水地理学会が正式にスタートした。当日は続いて午後3時から講演会が行なわれ、内藤博夫助教授「ポーランドを訪問して」、八村圭子氏(23回生)「カリフォルニアの米作り」の2つの講演があった。午後5時半からは会場を桜蔭会館に移して懇親会が開かれ、55名の出席者がなごやかに語り合った。

準備委員会の委員がそのまま学会の役員として選出された結果、今年度の学会運営は下記の役員諸氏を中心に行なわれている。今年度の学会活動の記録は以下の通りである。

総会・講演会・懇親会—5月15日（上記）

談話会—7月10日（第47回）「イエメンの文化地理」向後紀代美（11回生）

10月23日（第48回）「土壌地理学における腐植層研究の意義」浅海重夫

1983年1月22日（第49回）「都市内部の住宅地の新陳代謝」村松晶子（21回生）

見学会—11月29日・地球観測センター（埼玉県比企郡鳩山村）参加者19名。地球観測衛星ランドサットの画像受信とその処理・解析システムの見学を行なった。
（案内者：瀬戸玲子、三上岳彦）

News Letter の発行—No. 1 5月15日

No. 2 10月31日

なお、58年度総会、講演会、懇親会は4月30日（土）に予定されている。

役員

総務 式 正英

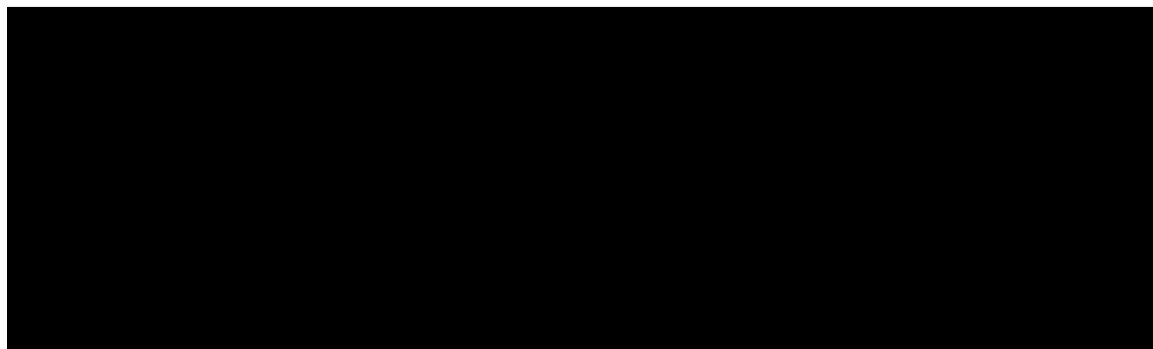
企画 浅海重夫・井内昇・瀬戸玲子・岡田久美子・岡崎セツ子・滝沢由美子・村松晶子

編集 式 正英・三上岳彦・栗原尚子・金子晶子・太田晴子・武田むつみ・中島直子他に学生6人

会計 内藤博夫・貝山久子・式好子・厚井和子・武田むつみ

庶務 井内昇・貝山久子・武田むつみ・青島朋子・渡辺真紀子

会 員 消 息



地 理 学 教 室 動 向

57年度における専任教員の担当科目は次のとおりである。

浅海重夫教授（地理学概論，地質学，自然地理学実験），式正英教授（地形学，地図学，地図学

演習), 井内昇教授(地理学概説, 集落地理学, 外国地誌Ⅲ, 都市地理学), 内藤博夫助教授(経済地理学Ⅰ, 経済地理学Ⅱ, 日本地誌Ⅱ), 三上岳彦助教授(気候学Ⅱ, 陸水海洋学, 自然地理学実験, 地理調査法), 栗原尚子講師(地理学<一般教育>, 外国地誌Ⅲ, 経済地理学Ⅱ). また, 各教官とも地理学演習を担当し, 他に大学院の講義をもった. なお, 地理学演習は昔にあった英書講読, 独書講読の伝統を継いだものであり, 演習Ⅰは井内・栗原両教官によってイエーツの北アメリカ都市類型などをテキストとして用い, 演習Ⅱは浅海・三上両教官によって土壌地理学, 気候学関係の文献指導, 演習Ⅲは式・内藤両教官によってイギリス人著者による北アメリカの地誌がテキストに使用された.

このほかに, 非常勤講師として, 朝倉隆太郎(筑波大), 有末武夫(群馬大), 江波戸昭(明治大), 河辺宏(人口問題研), 佐々木博(筑波大), 諏訪彰(元気象庁), 滝沢由美子, 宮口侗迪(早稲田大), 靱山政子, 横田忠夫(山梨大), 吉川虎雄(東京農業大)の各氏が, 学部および大学院の講義科目を担当した.

1年間勤務した武田むつみ助手が, 渡米のため58年3月で退職した. 4月からはその後任として, 村松晶子氏が着任する. 村松氏は本学の21回生(48年卒)で, 本学大学院修士課程を修了後, 東工大大学院博士課程を経て同研究生となり, 57年10月からは本教室の教務補佐員として勤務した. 58年4月より, 学科主任が式教授から井内教授に交代する. 大学院人間文化研究科(博士課程)の講座

委員として, 浅海教育(人間生態論)と式教官(比較社会構造論)が任命された.

57年から58年にかけて, コンピュータ関係の諸設備備品が本教室に導入された.

57年3月, カラーグラフィック・ターミナル(Nexus 5400)とマイクロコンピュータ(NEC PC8000シリーズ)が設置されたが, これにTVカメラを接続することによって, 土地利用図や空中写真・衛星写真等の色別情報を256×240のドット(画素)単位で読みとり, マイコンを通して, 各色調別の面積計算などが行なえるようになった. 将来は, カラーグラフィックターミナルに磁気テープ装置を接続し, ランドサットの画像データを数値処理することも可能である.

57年12月, マイコンPC8000シリーズに通信用ソフトウェアROMを装着, 音響カプラと電話回線を通して, 東京大学大型計算機センターのTSS端末機として機能するようになった. 通信速度も1200BPSと高速であるため, 従来理学部電算機室まで足を運んで行なっていたコンピュータ処理が, 教室内で手軽にできるようになった利点は大きい.

未製本のまま保管されていた初期の卒業論文(全113冊)がすべて整本され, 利用の便がよくなった.

元日本地理学会会員の故堀内峯氏(豊島師範卒・東大で辻村先生のもとで研究)遺族から, 地理学関係の単行本と地理学評論・地理のバックナンバー等の寄贈がなされた. 本教室に保管してあるので有効利用されたい.

お知らせ

会員諸氏の投稿を募ります. 会員は論説, 短報, 近況・随筆に投稿することができます. また, 会員外でも, 学会が認めた場合には投稿を受けつけます.

①論説はオリジナルな研究成果をまとめたもので, 図表を含め刷上り8ページ(1ページは専用原稿用紙約4枚)以内を原則とします.

②短報は研究, 調査の中間報告などで, 図表を

含め刷上り4ページ以内を原則とします.

③近況・随筆はテーマは自由ですが, 刷上り1ページ程度を原則とします.

④論説・短報については, 超過ページ分は著者負担(1ページ5,000円)とします.

⑤投稿原稿は, 原則として当学会専用原稿用紙(22×20字詰め)に書き, 12月末日までに編集委員会宛送付して下さい.